

令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】新宿区立落合第四小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月8日】

授業作り	<p>重点</p> <p>校内研究を中心として、児童の実態に即した指導を工夫するとともに、教科横断的な指導の視点を持ち、学んだことを他教科等でも活用することができるよう、引き続き振り返りと評価の充実を図りながら「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指す。また、AI 機能をもつデジタル教材や協働学習支援ツールなど、一人1台のタブレット端末やICT 機器を効果的に活用した授業を推進する。</p>
環境作り	<p>写真や絵、ICT 機器の活用等を図り、情報を視覚的に提示するよう工夫する。また、ユニバーサルデザインの観点から、掲示板のカーテンを適宜使用し、ホワイトボード周りの情報を制限して、児童が落ち着いて学習に取り組めるよう環境を整える。</p>

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の指導に丁寧に取り組む、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・学びの楽しさや積み上がりを児童が実感できるようにする。 ・幼児期の学びを生かし、安心して様々な学習に向かえるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 友達に自分の考えを表現する活動の充実 ② 「園ではどうしていたか」と問うなど、課題の解決に向けて自分の考えで取り組めるようにするための声掛け
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名、片仮名、漢字の混じった文章をすらすらと読むとともに、文章の内容を正確に理解する力を伸ばす。 ・マス目の使い方を覚え、既習の漢字、片仮名、助詞や、拗音、促音等を適切に使用して、学習の中で書きたいと思う内容を簡単な文章に表す力を身に付ける。 ・既習の漢字の定着を図るため、既習の漢字を読んだり使ったりすることができるようにする。 ・計算能力の個人差を埋めることを目指し、1桁の足し算や引き算、2桁の筆算など、2年で必要な計算能力を確実に身に付ける。 	<ol style="list-style-type: none"> ① 毎日文章を読む習慣付けをするため、家庭学習による音読の取組 ② 生活文、紹介文や説明文等を順序立てて書く活動 ③ デジタルドリルの活用 ④ 朝学習で既習の計算の復習 ⑤ 文章題に線を引き内容を確認する活動
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査では、国語も算数も新宿区の平均より上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では、漢字の書き取りや意味理解、言葉の使い方などの基礎的な力が習得できるようにしてい 	<ol style="list-style-type: none"> ① 漢字の学習時間の確保 ② 漢字の定着のための小テストの活用

<p>年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3年の漢字の習得に課題がみられる。 ・算数では、九九の習得は概ねできている。計算力もある。思考力を問われる問題に苦手傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章で表現する力を付けていく。 ・算数では、文章問題を正しく読み取り考えを説明する力を付けていく。 ・図形などの作図、測定のを身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ③ 間違えた漢字直しの徹底 ④ 小テストの2回以上の実施 ⑤ 作図の時間や測定する時間の十分な確保 ⑥ デジタルドリルの活用
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査では、国語は、全国平均を上回っているが、区の平均を下回っている。特に、知識・技能の観点若干下回っている。読解力と思いを文章にする力は身に付いているので、語彙力を付けさせたい。 ・算数は、区の平均及び全国の平均を上回っている。特に、データの活用の問題が新宿区平均より7%上回っている。また、図形の問題、加法、減法に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語では内容を理解しながら聞くことに重点を置いて指導する。聞いたことを自分の言葉に置き換えたり、一つの意味を複数の言葉で表現したりする力を育て、話す時にも活用できるようにする。また、読書の時間を確保して語彙を増やすとともに、漢字の書き取りの定着を図る。 ・算数では、既習の基礎・基本となる内容を理解し定着を図るとともに、計算力を身に付けるようにする。また、図形については、描画を中心にして丁寧に概念を捉えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 聞く環境を整える声掛け ② 全校朝会での話の内容を毎回確認することによる聞き取りの意識付け ③ 漢字の定着のための小テストの活用 ④ 漢字練習や再テストをすすんで行った児童を称え意欲をもたせる声掛け ⑤ デジタルドリルの活用 ⑥ 語彙力を高めるための読書の時間の確保 ⑦ 習熟度別算数のコース分けによる十分な個別指導
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文や資料から情報を正確に読み取る力に課題がある。 ・漢字を正しく書いたり、図形の形を捉え、作図したりすることに課題がある。 ・考えたことを文章化したり、話を正しく聞き、自分の考えを伝えたりすることに苦手意識を感じている児童が一定数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読む力、問われていることを正確に読み解く力の向上を図る。 ・定規などの道具を正しく使い、正確に作図できるようにする。 ・相手の話を正確に聞くことができるようにする。 ・自分の考えが相手に伝わるように、話したり書いたりして表現する力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 週に1度の朝読書の時間の確保 ② 読書カード作成、記録、味見読書、音読の実施 ③ デジタルドリル、デジタル教科書を活用し、図形の視覚的把握及び理解。計算ドリルと漢字ドリルの取り組みによる基礎的・基本的な知識の定着。 ④ 学級会の定期的な実施により、相手の意見を聞き、意見に折り合いをつける経験の積み重ね
<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に対する意欲が高い児童が多く、新宿区学力定着度調査では、国語、算数ともにほぼ全ての領域で区の平均を上回った。一方で、知識を身に付けていることに満 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが自分の力や課題に応じたためあてをもち、友達と協働しながら深い学びを実現していくこと。 ・見通しと関連付けた省察や、自己の学びの変容を意識した振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「なぜそうなるのか」「他にどのような考え方ができるか」等を考えさせる場面や、実物に触れさせる機会の設定による実感を伴った理解

	<p>足している場合が多く、実感を伴った理解になっていない様子が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りが感想にとどまる児童が多く、学習前に立てた見通しと実際の学びを関連付けた省察や、自他の考えに対する個別の振り返りが書けている児童が少ない。 	<p>を書けるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ② 学習前の見通しを板書やノートに残し、振り返りの際の活用 ③ 自分の考えと友達の考えを並べて比較する活動の実施による対話を通しての省察の深化
--	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■ 効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】【区教委提出用・様式2・令和8年5月8日】

- 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び児童へ説明をしている。
- 学校は活用の際して、IDやパスワードについて保護者及び児童へ説明をしている。
- 児童及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- 学校は児童が授業や家庭学習においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を児童に与えている。
- 担任等がデジタルドリルを活用し、児童一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

【令和7年度調査の結果に関する事後指導】

- ・漢字、計算は、毎日の漢字ドリル、計算ドリル、デジタル教材の活用による反復練習によって、漢字テストでは、平均80%以上取れるようになった。計算力についても着実についてきたが、まだ支援が必要な児童もいる。

【令和8年度調査の結果に関する事後指導】

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

- ・算数の授業でベーシックドリルを活用したり、家庭学習の課題としてデジタルドリルを活用したりしている。
- ・国語で新出漢字の筆順の学習や振り返りに活用したり、算数で教科書の課題が早く終わった児童がデジタルドリルの計算練習に取り組むなどしたりして活用している。
- ・キーボード入力を身に付けさせるため、ローマ字学習に取り組んでいる。タイピングソフトを活用し、スムーズに文字入力ができるように指導している。また、協働学習支援ツールを活用して、児童間同士の伝え合い、まなび合いに進んで取り組んでいる。